

# 「さがみ地粉の会」の活動について

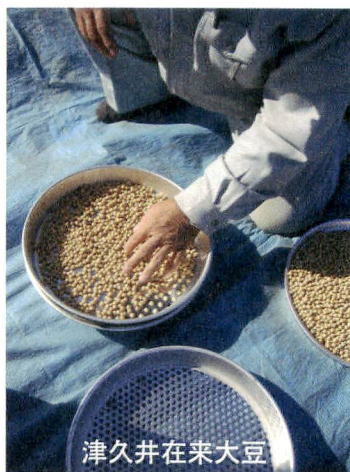
普及指導部

荒廃農地解消や地産地消の推進は、地域農業の振興の中で大きな課題となっています。このような中、藤沢市の「さがみ地粉の会」は、農地の有効利用や所得の向上を目的として平成16年に結成されました。当会は、地元の荒廃農地を借りて小麦・大豆を栽培し、地粉うどんや大豆加工品（豆腐等）の原材料として販売する取り組みを行っています。

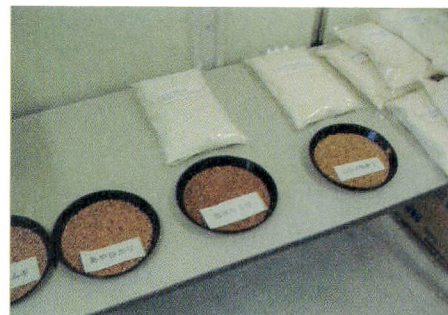
小麦では、高品質栽培技術や新品種の導入に取り組んで作付面積を拡大したり、栽培した「農林61号」「あやひかり」「ニシノカオリ」の三品種を原料に「三色うどん」の商品化も行っていきます。これは地域特産品としてファーマーズマーケット（わいわい市）等で販売しています。また、製パン業者との交流も行い、パン加工用小麦粉の販路拡大も図っています。

大豆では、加工特性がすぐれた本県在来の「津久井在来大豆」を栽培し、行政との連携によって地元の豆腐等の加工業者や学校給食へ収穫物の提供等を行っています。また、市民を対象とした大豆栽培による食農講座を開設し、農業についての理解を高める活動も行っていきます。

現在、小麦・大豆の栽培面積の拡大と販路確保を目的に、普及指導部では、収量の安定と高品質化に向けた支援に取り組んでいます。



津久井在来大豆



小麦品種の比較



小麦の収穫体験

# ニンニクの品種選定と栽培法の確立

三浦半島地区事務所

ニンニクは、青森県が全国一の産地ですが、中国産の輸入も多く、最近では、品質のよさや安全、安心感などから国産や地場産ニーズが高まっています。

当所では、三浦半島の新たな経済作物としての有効性を検討するため、温暖な気象条件に合った品種の選定や栽植密度、自家生産による種球利用等について試験を行っています。

品種は、寒地型品種「福地系ホワイト六片」、暖地型品種「平戸」および「嘉定」の栽培適性について調べています。

「福地系ホワイト六片」はりん茎（球重）が大きく、りん茎色も白く鮮やかですが、りん片ができない未分化株の発生がみられました。暖地型では、「平戸」がりん茎の肥大がよく、りん片形成もよいことがわかりました。栽植密度は、条間×株間=30×15cmに対し、15×15cmでは球重が3~4割小さくなりました。自家生産した種球では、発芽不揃いやウイルス病の感染率が高い傾向も認められました。

各試験については、年次変動等も考慮して引き続き検討を行います。また、温暖な気象条件を活かした「4月どり生ニンニク栽培」について、園芸振興松島財団の研究助成を受けて、今年度栽培試験を実施しています。



球肥大期のニンニク(4月)



4月どりの生ニンニク「平戸」